

(4) 慢性腎疾患（CKD）啓発事業

1 背景

愛知県における血液透析患者数は、平成21年3月末において15,125名で年々増加傾向にあり、県民の約500人に1人が透析を行っている。一方、透析にかかる医療費は概ね、年間500万円と言われており、総医療費の4%を占めている。

2 目的、趣旨等

平成20年度からメタボリックシンドロームに着目した健診・保健指導が始まっているが、これと同様に慢性腎臓病（CKD）が国内外から注目されている。しかしながら、メタボリックシンドロームという言葉はよく知られているが、慢性腎臓病（CKD）は一般住民には認知されていない。

腎臓病の初期は何ら症状もなく、放置したままであると手遅れになり、腎機能低下を起こす恐れがあるので、CKD対策に取り組むためには、CKDの認知度を向上させる必要がある。

3 事業概要

3月の世界腎臓デーに合わせ、一般県民向けに名古屋市内の繁華街で**街頭キャンペーン及び健康相談**を実施し、啓発を行う。**委託先：（財団法人）愛知腎臓財団**

(参考)

愛知県CKD対策協議会（平成20年4月22日設立）

会長 松尾清一（名古屋大学医学部附属病院長）

